

平成30年度第2回島根県水産振興審議会概要

【日 時】平成31年3月18日（月）14:00～16:20

【場 所】松江市内中原町54番地 島根県職員会館 多目的ホール

【出席委員】升谷委員、門脇委員、林委員、野津委員、小川委員、福丸委員、保永委員、園山委員、波田地委員

【県出席者】松浦農林水産部長、鈴木次長(水産)、三浦水産課長、安木水産しまね振興室長、道根水産しまね振興室調整監、川島漁港漁場整備課長、村山水産技術センター所長、真井松江水産事務所長、来間隠岐支庁水産局長、中尾農林水産総務課管理監ほか関係職員

【審議概要】

1. 開会 事務局より開会

2. あいさつ 松浦農林水産部長
保永会長

3. 議事

- (1) 「新たな農林水産業・農山漁村活性化計画第3期戦略プラン」の見直しについて
- (2) 「新たな農林水産業・農山漁村活性化計画第3期戦略プラン」の取組状況について
- (3) 平成31年度主要事業等について
- (4) 栽培漁業について
- (5) 藻場回復対策について
- (6) その他

(1)～(5)について、県側から説明。主な意見、質疑は下記のとおり。

(○：委員からの質問・意見、⇒：県からの答弁)

○プロジェクトの2019年度の到達目標として掲げている11隻のリース事業活用について、現時点での進捗状況を伺いたい。事業はリース事業体である島根サポートが担っているが、事業が円滑に進むよう県としてもしっかりと監督していただきたい。

⇒国では、平成27年度補正からスタートしたが、県は実質的には30年度スタートとなった。現在まで、定置網やカニカゴ漁船に活用され、7隻が導入された。来年度はそれプラス4隻を掲げ、11隻とした。新しい事業であるため、事務が進まず、船を造るのにも時間が掛かる状況でした。今後はスピード感を持って県としても監督していきたい。

○資源管理強化の話があり、現在、定置網においては、クロマグロの管理を徹底している。ただ、漁法的に放流が難しく、また放流したものがちゃんと資源として残っているのかを不安に思ってい

る。放流に当たっては、クロマグロだけを逃がすことが難しく、経営面にも影響を受けることになり、休漁補償などについて、しっかり対応していただきたい。また、最近、ハリセンボンが大量に定置網に入っており、大変困っている。これが長く続くと非常に厳しい状況となるので、水産振興の部分で助成などしっかり検討していただきたい。

⇒クロマグロの資源管理では、定置網の皆さんには大変な協力をいただいている。国の方では、漁獲共済による補填や新たな休漁補償的事業の実施を進めているところ。県としても、漁具等への経営面での支援等も検討を始めたところである。ハリセンボンについては、お話は聞いているが、情報収集を行っているところ。今後お伝えできればと考えている。

○国において、漁具の導入に掛かる補助があると聞いているが、どの様なものか

⇒リース事業の地域版の形で、漁船と漁具のセットでリースをするような補助事業であるようだが、まだはっきりしていない。県としても国の状況を見ながら、対象から外れるものを県でみるができるかどうか、検討が必要と認識している。今後の動きを注視している。

○成果指標の達成率の新規漁業就業者数では、集計中となっているが、プロジェクトに掲げている新規漁業就業者数の目標値と、平成31年度からの新規事業で説明のあった沿岸自営漁業の新規就業者数8人との関係について教えていただきたい。

⇒成果指標の新規漁業就業者とは、雇用と自営を合わせた数のことで、沿岸自営漁業者の新規就業者とは、あくまでも自営の沿岸漁業を営む新規漁業者である。

○活性化プロジェクトで実施されている学校給食への取り組みは非常に大事なこと。水産振興につながる事なので一層進めていただきたい。あと、シラウオの環境DNAを用いた資源調査について、しっかり調査結果を情報提供していただきたい。併せて、ワカサギの資源回復についても行政指導をお願いする。

⇒学校給食については、事務所と連携を取りながら、検討を進めていく。シラウオ、ワカサギについても、情報収集等進めながら情報提供していきたい。

○フリー配偶体の管理機器である恒温器のコストが35万円から3万円になったと報告があったが、何かデメリット的なものはあるのか。

⇒デメリットとして、中に入れる容器の容量が少なく、温度調節が少し弱いところがある。

○県の主要事業の説明で、取り組みをすでに行っているところがあるのか、取り組みを実施する予定の場所があるのか教えていただきたい。

⇒隠岐で取り組まれている天然ワカメの加工などを参考としながら、別の地域で取り組みが進むように考えていきたい。

4. あいさつ 鈴木次長(水産)

5. 閉会